

宇宙開発の現状報告

(平成 22 年 3 月 24 日(水) ~ 平成 22 年 3 月 30 日(火))

平成 22 年 3 月 31 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 「HTV/H- B ロケットの開発」が第 39 回日本産業技術大賞文部科学大臣賞を受賞

3 月 24 日(水)、「HTV/H- B ロケットの開発」が第 39 回日本産業技術大賞文部科学大臣賞を受賞した。同賞は、日刊工業新聞社より、その年に実用化された革新的な大型産業設備に対し贈られるもので、JAXA および民間企業 11 社が共同で受賞した。

- 衛星を用いた防災利用実証実験に関する JAXA と地方公共団体との協定締結について

JAXA と三重県は、JAXA が開発した衛星を用いて、三重県の防災業務における衛星の有効性を検証することを目的とした防災利用実証実験を共同で実施するため、3 月 25 日(木)に協定を締結した。本協定は、衛星による広域観測技術、大容量通信技術を活用することにより、将来の災害応急対策の円滑な実施や体制整備への貢献を目指す。

また、JAXA と高知県、JAXA と徳島県は、陸域観測技術衛星

「だいち」を利用し、地震、風水害等の防災分野における有効性を検証することを目的とした防災利用実証実験を共同で実施することとし、それぞれ 3 月 29 日(月)、3 月 30 日(火)に協定を締結した。高知県との協定は、河川のはん濫や土砂災害などに対する「だいち」の観測データの利用方法を二者間で確認し、東南海・南海地震を対象とした「だいち」からの情報と既存の防災情報との効果的な活用方法を検討することで、大規模な災害に対する防災情報の高度化を図り、将来の防災・減災業務への貢献に期待するものである。また、徳島県との協定については、大規模な風水害や地震発生時において課題視されている孤立集落問題などについて、衛星による広域観測技術、大容量通信技術を活用することにより、将来の防災業務への貢献を目指すものである。

- ISS/「きぼう」の文化・人文社会科学利用パイロットミッションアイデア募集の選定結果について

2010 年度から 2011 年度頃の 2 年程度の間「きぼう」日本実験棟にて実施する文化・人文社会科学利用の候補テーマとして 8 件が選定された。選定された 8 件の候補テーマは、ISS/「きぼう」の文化・人文社会科学利用パイロットミッションのアイデア募集(2009 年 8 月 ~ 9 月)に応募のあったアイデアの中から、JAXA 及び文化・人文社会科学利用パイロットミッション選定委員会にて評価・選定されたもので、今後、代表提案者と JAXA が共同して実施計画の具体化作業を行い、選定委員会による中間評価を経て、宇宙で実施することとなる。